

科目名 【英】	情報科学 【Information Processing】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	1年生	学期	2学期	曜日	火曜	時限	1限目

担当教員	竹田 実和子	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	Word、Excel、PowerPoint の操作を通し、パソコンの活用方法を学ぶ。 適切に情報を活用することができる情報リテラシーを学ぶ。
到達目標	コンピュータの基本操作を身につけ、一般的な文書作成、計算処理ができる。 簡単なプレゼンテーション資料作成能力を身につけ、発表を行うことができる。 情報モラルを身につけ、情報化社会でのルールを守ることができる。

準備学習 時間外学習	予習として教科書を読んでおくこと。授業で学習した演習問題を復習すること。
使用教材	教科書『Office 基礎と情報モラル Office365・Office2019 対応』（noa 出版）
留意点 備考	平常点は、主に授業中の態度・取組姿勢などを評価します。

成績評価	本試験（3回 各 25%）75%＋平常点 25%
------	--------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	PC 基礎	情報リテラシー（個人情報、ネチケット等）を理解する。 PC の基本操作、文字入力、フォルダーとファイルの基本操作ができる。
2	Word①	文書作成の為に Word の各機能を使い、書式設定、文書編集ができる。
3	Word②	Word を使って、表の挿入、編集ができる。
4	Word③	画像・図形等を使って効果的な文書を編集できる。
5	Word④・Word テスト	問題演習・Word 評価テスト
6	Excel①	データ入力、書式設定、表示形式を使い、表を作成することができる。
7	Excel②	絶対参照、四則計算、基本的な関数を使って演算を行うことができる。
8	Excel③	グラフの作成と編集ができる。データベースを活用することができる。
9	Excel④・Excel テスト	問題演習・Excel 評価テスト
10	PowerPoint①	スライドの作成と効率的な編集ができる。グラフを挿入して Excel との連携ができる。 アニメーション効果を使うことができる。
11	PowerPoint② (課題制作=PP テスト A)	課題制作（スライドおよび原稿作成）…テスト扱い・持込可
12	PowerPoint③ (課題発表=PP テスト B)	プレゼンテーション発表

科目名 【英】	生物学 【Biology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	1年生	学期	1学期	曜日	木曜	時限	1.2限

担当教員	濱田 吉之輔	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	基礎医学を学ぶ導入段階として、生物学のヒトに関する生物現象を学ぶ。
到達目標	生物学の知識格差を無くし、並行して基礎医学を学ぶことで基礎医学への学びが円滑になること。

準備学習 時間外学習	1学期から学習する解剖学、生理学を予習復習しておく。
使用教材	配布資料
留意点 備考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成	細胞や組織など人体を構成するものを列挙できる。 細胞小器官などの機能の説明ができる。
2	循環器系	循環器系の解剖学的用語を列挙できる。 心臓からの循環について説明できる。
3	呼吸器系	呼吸器系の解剖学的用語を列挙できる。 呼吸運動や呼吸の生理学について説明できる。
4	消化器系	消化器系の解剖学的用語を列挙できる。 消化器の機能を説明できる。
5	泌尿生殖器系	泌尿器、生殖器の解剖学的用語を列挙できる。 泌尿器生殖器の機能を説明できる。
6	内分泌系	内分泌腺の解剖学的用語を列挙できる。 内分泌系の機能、内分泌物の作用について説明できる。
7	神経系①	中枢神経系の解剖学的用語を列挙できる。 中枢神経系の機能を説明できる。
8	神経系②	末梢神経系の解剖学的用語を列挙できる。 末梢神経系の機能を説明できる。
9	感覚器系	感覚器系の解剖学的用語を列挙できる。 感覚器系の機能を説明できる。
10	1学期復習	1学期で学んだ内容を説明できる。
11	試験	試験
12	まとめ	

科目名 【英】	コミュニケーション学 【Communication Studies】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学年	1年生	学期	1.2学期	曜日	木曜日	時限	1学期：3限 2学期：1限

1学期 担当教員	北川 朋子	実務者経験	
2学期 担当教員	澤村 律子	実務者経験	

1学期 学習内容	社会人として必要な教養や社会的な規範を学習していく。そのために、文章を読み、論理的に書くことを学んでいく。次にグループワークを通して、他者の意見を尊重しながらも、自分の見解を的確に伝えていくことを練習していく。
2学期 学習内容	コミュニケーションについて基礎的知識を学び、また患者の心理や医療におけるコミュニケーションについて学習する。
1学期 到達目標	適切な日本語を使って、文章を書くことができるようになること。さらに正しい敬語の使い方を理解して、さまざまな場面でコミュニケーションをとることができるようになること。
2学期 到達目標	①医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる。②非言語的コミュニケーションについて説明できる。③傾聴の重要性、基本的技法について説明できる。④自己理解を深め、コミュニケーションにおいて自身をコントロールすることを理解する。⑤患者の心理について説明できる。

準備学習 時間外学習	1学期	興味のある分野の書籍を見つけて、読書の習慣をつけておくこと。	2学期	授業内で次回授業の準備学習、時間外学習について説明を行う。
使用教材		配布資料		授業中に資料を配布する。また参考書は随時紹介する。
留意点 備考		授業ごとに発表とレポートの提出があり、平常点として評価する。		なし

成績評価	1学期	本試験 60% 平常点 40%	2学期	100点法により評価 試験 70% 授業内レポート 30%
------	-----	-----------------	-----	----------------------------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	授業内容の説明 「自己PR」について	「自己PR」と「自己紹介」の違いを学び、実際に「自己PR」文を書いていく。
2	「履歴書」の書き方	「履歴書」の書き方について学び、実際に記述していく。
3	グループディスカッション	一つのテーマを話し合い、集団討論の方法を学ぶ。
4	論文・レポートの書き方1	「論文・レポート」と「作文・感想文」の違いを学び、実際に小論文を書いていく。
5	新聞の読み方	新聞記事を読み、要約して自分の意見を発表していく。
6	評論文の読み方	評論文を実際に読んで、要約して自分の意見を発表していく。
7	グループワーク	一つのテーマからグループ全員で、他の人たちが理解し、納得する説明ができるようになることを学んでいく。
8	敬語の知識	尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方を学び、実践的な活用をしていく。
9	電話の応対	敬語の知識を踏まえて、電話のかけ方と受け方のマナーを学ぶ。
10	論文・レポートの書き方2	就職や試験に役立つテーマから小論文を書き、自分の見解を発表していく。
11	試験	試験
12	予備日	

2 学期 授業計画【内容・目標】

1	医療におけるコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの重要性 コミュニケーションの行き違いがなぜ起きるのか？述べることができる
2	非言語的コミュニケーション 1	非言語的コミュニケーションの種類、非言語的コミュニケーションの特徴 非言語的コミュニケーションの重要性を述べることができる。
3	非言語的コミュニケーション 2	非言語的コミュニケーションの種類、非言語的コミュニケーションの特徴 面接における非言語的コミュニケーションの注意点について述べることができる。
4	傾聴	傾聴について、傾聴の重要性、効果、傾聴の技法 傾聴の重要性について述べることができる。
5	対人認知	対人認知における歪み（思い込み、ハロー効果、寛大効果 など） 対人認知の歪みについて述べることができる。
6	交流分析	交流分析の理論、自我状態 交流分析の 3 つの自我状態を説明することができる。
7	ライフサイクル	ライフサイクル、発達段階の特徴 各発達段階の特徴を述べることができる
8	患者心理	病気による心理的变化、患者のストレス 病気による心理的ストレスについて述べることができる。
9	行動変容 1	学習理論、自己効力感 学習理論について説明することができる。
10	行動変容 2	行動変容 行動変容のステージモデルについて説明することができる
11	試験	試験
12	予備日	

科目名 【英】	外国語①～医療英語～ 【Foreign Language】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単位	3
学 年	1 年生	学 期	2.3 学期	曜 日	木曜	時 限	2 限

担当教員	南 雅子	実務者経験	
------	------	-------	--

2 学期 学習内容	鍼灸師としておさえておきたい基礎医療英語(症状名、各医療機関名、医療略語、患者対応会話、バイタル、身体名、痛みなど)および診療に役立つ基礎英語知識を学ぶ。
3 学期 学習内容	2 学期に学んだ基礎医療英語の知識を用いて、東洋医療の英語、鍼灸、スポーツトレーニングにおける専門英語をとりあげながら鍼灸治療で使えるさまざまな表現などを学ぶ。
2 学期 到達目標	医療従事者を目指す上で知っておきたい基礎医療用語や表現の習得を目指す。
3 学期 到達目標	東洋医療英語、鍼灸英語の習得を目指しながら、鍼灸治療におけるさまざまな表現などを使えるようにする。

準備学習 時間外学習	症例名、バイタルなどの医療英語を学んでいくので医療の基礎知識があることは望ましい。
使用教材	教科書『MEDICAL ENGLISH COMMUNICATION』(国際教育者社) 配布プリント
留意点 備 考	外国語①において、東洋医学、鍼灸の専門英語を学習するので基礎力をつける。

成績評価	2 学期	2 回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 学期末試験 80%+発表/口頭試験 20% で評価する。	3 学期	3 回の発表と医療英単語の口頭試験を実施。 学期末試験 75%+発表/口頭試験 25%で評価する。
------	------	--	------	--

2 学期 授業計画【内容・目標】			
1	医療英語① 1	医療英語、授業の進め方/受付 Ch. 1/発表(1) - 自己紹介/よく使う英語表現(1) 医学英語の概要を理解することを目指す。	MA A～B
2	医療英語① 2	身体部位の名称 Ch. 3/症状 Ch. 4/顔の名称/名刺の書き方/ファイルの使い方 症状の言い方、体の名称が言えるようことを目標とする。	MA C～D
3	医療英語① 3	病院各科名 Ch. 2/痛み Ch. 3、/問診 Ch. 5/英語問診票(内科/整形外科)/身体の名称 内科、外科の問診票を用い問診方法の学ぶ。	MA E～H
4	医療英語① 4	問診アレルギーや既往歴 Ch. 6/内臓器官名 Ch. 6/発表(2) Group Work - 受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標とする。	MA I～N
5	医療英語① 5	内科 診察/測定 Ch. 7/バイタルサイン Ch. 8/血管、心臓/病院会話のヒント/受付、診察室の会話 病院の受付や診察室での会話ができるようになることを目標にする。	MA O～S
6	医療英語① 6	外科 Ch. 9/ 検査、処置 Ch. 10/会計 Ch. 16 /会計窓口の表現/医療系就職教養英語問題 医療系教養問題を解いてみることで医学英語の基礎理解を目標とする。 MA カルテ略語 etc. /T～Z	
7	医療英語① 7	救急患者 Ch. 11/緊急時の英語/処方箋と薬 Ch. 17/揭示表現 etc. 医療従事者が知っておきたい緊急事の英語の単語や用語を使えることを目標とする。	
8	医療英語① 8	医療英単語 Review/多言語問診票(内科、外科)/カルテ Ch. 18/歯科 Ch. 19 医療英単語のまとめと練習によって基礎知識の理解を目標とする。	
9	医療英語① 9	医療英単語一口頭試験/ 骨系、筋肉系資料解説 医療英単語の口頭試験によって発話の機会と定着を目標とする。	
10	医療英語① 10	医療英語用語/医療現場で使う表現/バイタルサイン/医療英単語/医療各科名などの復習 善意期末試験のためのまとめ学習をすることによる復習を目標とする。	
11	医療英語① 試験	2 学期末試験	
12	医療英語① 12	試験返却、見直し/よく使う英語表現/鍼灸の基礎 Ch. 15/Work Out/お礼、お見舞いの英語-資料 試験の見直しと、3 学期に行う鍼灸の英語の説明を行う。	

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医療英語② 1	針灸、漢方の単語、/鍼灸院での治療/瞑眩反応(好転反応)/痛みの表現、人体名/発表(1)受付の会話 東洋医療、鍼灸の英語をどう学んでいくか説明し授業への取り組みを理解することを目標とする。
2	医療英語② 2	つぼ、陰陽、手技の単語、/鍼灸院での治療/手指、足指、間接/海外の鍼灸資料/内蔵名 海外における鍼灸治療の現場の話や現場で使われる用語などの練習を行う。
3	医療英語② 3	血液、神経、筋肉の単語/指の関節、足の関節/鍼灸治療時の英会話 鍼灸治療時の英会話の練習により使えることを目標とする。
4	医療英語② 4	組織、関節、靱帯/ 鍼灸治療のフレーズ/鍼灸院の受付、診察室での会話(ペアの打ち合わせ練習) 鍼灸院の受付、診察室での会話をペアで練習して様々な表現を学ぶことを目標とする。
5	医療英語② 5	呼吸器疾患、循環器疾患/足ツボの英語/発表(2) 鍼灸院の受付、診察室の会話 鍼灸院の受付、診察室での会話の発表により使えるようにすることを目標とする。
6	医療英語② 6	鍼灸治療に使う用語/鍼灸院での英語の同意書/リスニング-鍼灸院での会話 鍼灸院での会話のリスニングによって英語表現になれることを目標とする。
7	医療英語② 7	炎症の5兆候、婦人科系/骨/鍼灸用語まとめ/鍼灸治療での会話(スクリプト作成提出、練習) 鍼灸治療に関連する症例の紹介、治療での会話を各自考えることによる理解向上を目標とする。
8	医療英語② 8	発表(3)-鍼灸治療での会話/筋肉、皮膚、中医学/口頭試験のための単語復習 鍼灸治療の会話の発表により色々な表現を使えるようにすることを目標とする。
9	医療英語② 9	口頭-試験鍼灸、東洋医療関連用/鍼灸でよく扱う疾患まとめ 鍼灸、東洋医療関連の英単語の口頭試験により理解と話せることを目標とする。
10	医療英語② 10	鍼灸用語、東洋医療、疾患系、鍼灸治療の英語などの復習 試験のためのまとめ学習を通して学習内容の定着を目標とする。
11	医療英語② 試験	3学期末試験
12	医療英語② 12	試験返却、見直し/鍼灸院の英語ホームページ/鍼灸院問診票/鍼灸、東洋医療用語資料配布 現場で使えるさまざまな資料の紹介と使用練習による実践へのサポートをする。

科目名 【英】	自然療法概説 【Outline of Naturopathy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	1年生	学期	1学期	曜日	水曜	時限	2限

担当教員	社家 あい子	実務者経験	
------	--------	-------	--

学習内容	自然療法（特にアロマセラピー）について学習する
到達目標	社団法人日本アロマ環境協会が実施するアロマセラピー1級検定試験合格程度の知識および鍼灸師が使える応用手技を修得する

準備学習 時間外学習	なし
使用教材	プリント配布
留意点 備考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	授業概要	①自然療法について ②美容鍼灸について
2	検定対策1	精油の基礎知識
3	検定対策2	精油が働くしくみ、安全のための注意
4	検定対策3	精油プロフィール
5	検定対策4	精油プロフィール
6	検定対策5	精油プロフィール
7	検定対策6	精油プロフィール
8	検定対策7	精油プロフィール
9	検定対策8	試験対策・総復習
10	まとめと総復習	まとめ
11	試験	試験
12	実技実習	①アロマセラピーの利用法と素材 ②背面のオイルマッサージ

科目名 【英】	解剖学① 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1. 2 学期：月 曜 3 学期：火曜	時 限	1 限

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当
------	-------	-------	---

学習内容	筋骨格系の名称を学ぶ 骨の構造、関節構造を学ぶ 筋の作用よりどのような運動が起きるかを学ぶ
到達目標	ヒトの骨の名称を列挙できる ヒトの骨の部位の名称を列挙できる ヒトの筋の名称を列挙できる 筋の作用を筋の名称と併記できる 運動により起きる障害が想起できる

準備学習 時間外学習	配布資料の事前確認 解剖学教科書の内容確認
使用教材	配布資料【ファイル】 医歯薬出版解剖学第 2 版 医学書院プロメテウス解剖学コアアトラス第 3 版
留意点 備 考	資料を事前に確認しておくこと グループワークの際は積極的に参加すること

成績評価	平常点：30%【小テスト：10 点満点】 本試験：70%【筆記試験：100 点満点】
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	身体の構造など 骨の分類・構造	解剖学 骨細胞 長骨・短骨・扁平骨など 運動の名称を列挙できる
2	関節の分類・構造 全身の骨格	滑膜性関節 関節の動き 全身骨格の名称 全身骨格の名称を列挙できる
3	大腿骨	骨の名称 骨上のランドマーク FTA 大腿骨上にあるランドマークを列挙できる
4	脛骨・腓骨	骨の名称 骨上のランドマーク 脛骨・腓骨上にあるランドマークを列挙できる
5	足部	骨の名称 骨上のランドマーク 距骨の構造 足部の骨の名称を列挙できる 距骨の構造を説明できる
6	骨盤【寛骨】	骨の名称 骨上のランドマーク 男女の差 寛骨上のランドマークを列挙できる 寛骨の男女差を説明できる
7	肩甲骨・上腕骨・ 鎖骨	骨の名称 骨上のランドマーク 上肢帯・自由上肢【上腕骨】上のランドマークを列挙できる
8	橈骨・尺骨・手部	骨の名称 骨上のランドマーク 自由上肢【前腕・手部】上のランドマークを列挙できる 手根骨の並びを説明できる
9	体幹の骨 椎骨・肋骨など	骨の名称 骨上のランドマーク 椎骨【頸椎～腰椎・仙骨】の個数を説明できる 椎骨の基本構造を説明できる 各椎骨のランドマークを列挙できる 肋骨上のランドマークを列挙できる
10	復習	全身の骨の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説 頭蓋骨の名称 頭蓋骨の名称を列挙できる 各頭蓋骨の特徴を説明できる

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	筋肉について	分類 役割 動き方 全身にある筋肉の特徴を説明できる
2	全身の筋	全身の骨格筋について 全身の骨格筋の名称を列挙できる
3	運動について	てこ 力学 トルク 運動学基礎【てこ、トルクなど】について説明できる
4	下肢の筋	寛骨に付着する筋 寛骨に付着する筋の名称を列挙できる 寛骨に付着する筋の作用を説明できる
5	下肢の筋	大腿部の筋 大腿部に付着する筋の名称を列挙できる 大腿部の筋の作用を説明できる
6	下肢の筋	下腿・足部の筋 下腿・足部の筋の名称を列挙できる 下腿・足部の筋の作用を説明できる
7	下肢の運動	股関節・膝関節・足関節の運動とてこ 下肢の運動のてこを説明できる
8	上肢の筋	肩甲骨に付着する筋 肩甲骨に付着する筋の名称を列挙できる 肩甲骨の筋の作用を説明できる
9	上肢の筋	上腕部の筋 上腕部の筋の名称を列挙できる 上腕部の筋の作用を説明できる
10	復習	2 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	上肢の筋	上腕部の筋・前腕部の筋・手部の筋 上肢の筋の名称を列挙できる
2	上肢の運動	肩関節・肘関節・手部の運動とてこ 上肢の運動を説明できる
3	体幹の筋	胸部・腹部の筋 胸腹部の筋の名称を列挙できる
4	体幹の筋	背部・頸部の筋 頸部・背部の筋の名称を列挙できる
5	体幹の運動	体幹の運動 体幹の運動を説明できる
6	顔面の筋・運動	表情筋 表情について 表情筋の特徴を説明できる
7	局所解剖	全身の局所解剖 全身の筋の名称を列挙できる 局所解剖について説明できる
8	神経支配 体表観察	各筋肉の支配神経 体表から触知できる筋肉 全身の支配神経を分類できる
9	運動連鎖	OKC・CKC SSC について OKC・CKC・SSC を説明できる
10	復習	3 学期の復習
11	試験	
12	予備日	試験返却 解答解説

科目名 【英】	解剖学② 【Anatomy】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学年	1年生	学期	通年	曜日	水曜	時限	1限

担当教員	伊藤 裕子	実務者経験	
------	-------	-------	--

学習内容	人体の組織的および肉眼的系統解剖学について学ぶ。
到達目標	身体を構築する各臓器の構造を機能とともに理解する

準備学習 時間外学習	解剖学用語は医学的な用語、漢字が多いので読み方がわからないときは辞書を用いて予習しておくこと
使用教材	解剖学 東洋療法学校編
留意点 備考	3Dで理解できるソフト、アプリなどを活用できると良い

成績評価	本試験 90%、平常点 10%
------	-----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	人体の構成 1	細胞の構造、細胞分裂 細胞構造、細胞分裂について説明できる。
2	人体の構成 2	組織 各組織について名称を列挙できる。
3	人体の構成 3	組織、体表構造、人体の方向と区分 組織、体表構造、人体の方向と区分について説明できる。
4	循環器系 1	血管系、心臓 血管系について説明できる。 心臓の部位の名称を列挙できる。
5	循環器系 2	動脈系 動脈系について説明できる。 各部の動脈の名称を列挙できる。
6	循環器系 3	静脈系 静脈系について説明できる。 各部の静脈の名称を列挙できる。
7	循環器系 4	胎児循環、リンパ系 胎児循環について説明できる。 リンパ系に関連する名称を列挙できる。
8	循環器系 5	予備日
9	呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺 呼吸器系各部の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	消化器系 1	消化管の基本構造 消化管の基本構造について説明できる。
2	消化器系 2	口腔、咽頭 口、咽頭の部位の名称を列挙できる。
3	消化器系 3	食道、胃、小腸、大腸 食道～大腸までの部位の名称を列挙できる。
4	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 肝臓、胆嚢、膵臓について説明できる。 腹膜について説明できる。
5	泌尿器系	腎臓、尿路 腎臓、尿路の部位の名称を列挙できる。 泌尿器系の構造を説明できる。
6	生殖器系 1	男性生殖器 男性生殖器の部位の名称を列挙できる。 男性生殖器について説明できる。
7	生殖器系 2	女性生殖器 女性生殖器の部位の名称を列挙できる。 女性生殖器について説明できる。
8	生殖器系 3	受精と発生 受精と発生について説明できる。
9	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺 各内分泌器官の説明ができる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経系 1	中枢神経系（1）脊髄、脳幹 中枢神経系の部位を列挙できる。
2	神経系 2	中枢神経系（2）間脳・大脳 間脳、大脳の説明ができる。
3	神経系 3	中枢神経系（3）脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管 脳脊髄液の流路について説明できる。 脳の血管の名称を列挙できる。
4	神経系 4	伝導路（1）反射路・下行性伝導路 反射路、下行性伝導路の名称を列挙できる。
5	神経系 5	伝導路（2）上行性伝導路 上行性伝導路の名称を列挙できる。
6	神経系 6	末梢神経系（1）脊髄神経 脊髄神経の名称を列挙できる。
7	神経系 7	末梢神経系（2）脳神経・自律神経 脳神経の名称を列挙できる。 自律神経について説明できる。
8	感覚器系 1	視覚器・味覚器 視覚器、味覚器の部位の名称を列挙できる。
9	感覚器系 2	平衡聴覚器・嗅覚器 平衡聴覚器、嗅覚器の部位の名称を列挙できる。
10	復習	予備日、復習問題
11	試験	試験
12	予備日	試験問題の解説と復習

科目名 【英】	生理学① 【Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	金曜	時 限	1 学期：1 限 2, 3 学期：2 限

担当教員	杉本 公一郎	実務者経験	2009 年～2015 年 医療法人恵登久会 越川病院にて リハビリテーション室 室長として勤務 2016 年 すぎもと鍼灸整骨院を開設
------	--------	-------	--

学習内容	人体の機能を知り、代謝や運動がどのように行われているのかを学習する。
到達目標	生理学の基礎となる細胞の構造・機能、物質の代謝や生体のリズムおよび免疫機序に対する知識を習得し更に神経系の調節機能、筋の構造と働き、運動や感覚機能の仕組みを理解し習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】生理学 第3版 【配布資料】あり
留意点 備 考	

成績評価	本試験 70% 平常点 30%
------	-------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	生理学の基礎①	■ 生理学の特徴 ■ 細胞の構造と働き
2	生理学の基礎②	■ 物質代謝の仕組み ■ 体液の組成と働き ■ 物質の移動
3	ホメオスタシスと生体リズム	■ ホメオスタシス ■ 生体リズム
4	生体の防御機構①	■ 生体の防御機構と免疫 ■ 生体の防御機構に働く組織と因子
5	生体の防御機構②	■ 免疫反応の分類 ■ 炎症とアレルギー
6	神経①	■ 神経系概論 ■ ニューロンの構造と働き ■ 神経線維の興奮と伝導
7	神経②	■ 興奮の伝導と伝達
8	神経③	■ 中枢神経系・脊髄・脳幹・間脳
9	神経④	■ 小脳・大脳・大脳皮質の機能局在 電気活動
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	神経⑤	■ 末梢神経系
2	内臓の自律神経性調節①	■ 交感・副交感神経系
3	内臓の自律神経性調節②	■ 自律神経伝達物質と受容体 ■ 自律神経の中樞 ■ 自律神経反射
4	感覚①	■ 感覚の一般 ■ 体性感覚 表在感覚
5	感覚②	■ 体性感覚 深部感覚
6	感覚③	■ 内臓感覚
7	感覚④	■ 痛みの抑制系
8	感覚⑤	■ 特殊感覚 味覚 嗅覚 聴覚
9	感覚⑥	■ 平衡感覚 視覚
10	まとめ	
11	試験	
12	予備日	

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	筋①	■ 骨格筋の構造と働き ■ 筋の収縮の仕組み
2	筋②	■ 筋のエネルギー供給の仕組み ■ 心筋と平滑筋の構造と働き
3	運動①	■ 骨格筋の神経支配
4	運動②	■ 運動の調節 ■ 脊髄レベルの調整 ■ 各種反射
5	運動③	■ 脊髄レベルの調整 反射 ■ 脳幹による運動調節 ■ 小脳による調節
6	運動④	■ 大脳基底核による調節 ■ 大脳皮質による調節 ■ 錐体路系と錐体外路系
7	臨床応用	■ 実技を含めた、生理学の臨床応用
8	まとめ	
9	1 学期復習	
10	2 学期復習	
11	試験	
12	予備日	

科目名 【英】	生理学② 【Physiology】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：火曜 2 学期：水曜 3 学期：月曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：3 限 3 学期：1 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	正常な人間の身体のはたらき、機能を学ぶ。 生理学のなかでも第 2 章～第 9 章の内容(循環・呼吸など)について学ぶ。
到達目標	正常な人間の身体のはたらき、機能について説明ができる。 はり師きゅう師の国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学と関連させながら復習する。
使用教材	教科書『生理学』（東洋療法学校協会編） 配布プリント
留意点 備 考	副教材として、生理学①の範囲の配布プリントを持参して受講することが望ましい。

成績評価	各章ごとに小テストを実施。小テスト 30 点満点に換算し、定期テスト 70 点満点に加算し評価する。
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	循環 1	循環【血液の組成と働き】 循環の基本的な血液の働きについて説明ができる。
2	循環 2	循環【血液の組成と働き】 赤血球・白血球・血小板・血漿の成分と機能について説明ができる。
3	循環 3	循環【止血・血液型】 一次止血・二次止血について説明ができる。血液型について説明ができる。
4	循環 4	循環【心臓血管系】 大循環と小循環の流れが説明できる。心臓の構造と働きについて説明ができる。
5	循環 5	循環【刺激伝導系・心機能の調節】 刺激伝導系の流れが説明できる。心周期と心音について説明ができる。
6	循環 6	循環【血液循環】 血管の構造と働きについて説明ができる。
7	循環 7	循環【循環調節】 血液循環の調節の仕組みについて説明ができる。
8	循環 8	循環【リンパ系】 リンパの機能、生成と組成、リンパの輸送について説明ができる。
9	呼吸 1	呼吸【呼吸器・換気とガス交換】 外呼吸と内呼吸について説明ができる。肺気量について説明ができる。
10	呼吸 2	呼吸【呼吸運動と調節】 吸息と呼息について説明ができる。呼吸の反射性調節について説明ができる。
11	試験	1 学期試験
12	1 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	消化と吸収 1	消化と吸収【構造と機能】 消化器系の機能について説明ができる。
2	消化と吸収 2	消化と吸収【構造と機能】 消化酵素の種類と働きについて説明ができる。
3	消化と吸収 3	消化と吸収【消化管の運動】 咀嚼・嚥下(第1相～第3相)まで説明ができる。胃・小腸・大腸の運動の説明ができる。
4	消化と吸収 4	消化と吸収【消化液と吸収】 消化液とその働き、消化管ホルモンについて説明ができる。
5	消化と吸収 5	消化と吸収【消化液と吸収】 各栄養素の吸収について説明ができる。
6	消化と吸収 6	消化と吸収【肝臓の働き・摂食の調節】 肝臓、物質代謝について説明ができる。摂食の調節について説明できる。
7	代謝 1	代謝【栄養素の働き】 栄養素の働きと、エネルギーの代謝について説明ができる。
8	代謝 2	代謝【各栄養素の働きと代謝】 各栄養素の働きと代謝の仕組みについて説明ができる。
9	体温 1	体温【体温調節】 体温の変動について説明ができる。熱産生と熱放散について説明ができる。
10	体温 2	体温【発汗と調節】 発汗調節の仕組みについて説明ができる。
11	試験	2 学期試験
12	2 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	排泄 1	排泄【腎臓の働き】 腎臓の働きと、腎循環について説明ができる。
2	排泄 2	排泄【尿生成】 尿の生成の流れについて説明ができる。
3	排泄 3	排泄【腎臓と体液の調節】 体液のpH、浸透圧調節、体液量の調節について説明ができる。
4	排泄 4	排泄【蓄尿と排尿】 膀胱と尿道の神経支配について説明ができる。
5	内分泌 1	内分泌【ホルモンの特徴】 ホルモンの特徴と作用機序について説明ができる。
6	内分泌 2	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部と下垂体について説明ができる。
7	内分泌 3	内分泌【ホルモンの種類とその働き】 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺のホルモンについて説明ができる。
8	内分泌 4	内分泌【ホルモンの特徴】 膵臓・副腎・精巣・卵巣のホルモンについて説明ができる。
9	生殖・成長と老化 1	生殖・成長と老化【生殖】 男性と女性の生殖器について説明ができる。性周期について説明ができる。
10	生殖・成長と老化 2	生殖・成長と老化【成長と老化】 身体各部位の成長と細胞の老化について説明ができる。
11	試験	3 学期試験
12	3 学期まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

科目名 【英】	医療概論 【Outline of Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	1 年生	学 期	3 学期	曜 日	金曜	時 限	3 限

担当教員	太田 育夫	実務者経験	2000 年～2002 年 近畿大学医学部付属病院にて助手として従事 2002 年～2003 年 大阪府立中河内救急にてレジデントとして従事 2003 年～2005 年 東大阪市立総合病院にて医員として従事 2005 年～2017 年 近畿大学医学部付属病院にて講師として従事 2017 年～ 社会医療法人三和会永山病院にて救急部長として従事
------	-------	-------	---

学習内容	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について学ぶ。
到達目標	医学と医療の歴史・現代医学の現状・医の倫理について説明できる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	東洋療法学校協会編 医療概論 配布資料
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
2	医学史	教科書及びプリント資料を使用 医学の歴史の概要を学ぶ
3	医療とは①	医療の歴史 東洋医学と西洋医学
4	医療とは②	医療制度
5	医療とは③	倫理
6	日本の医療	日本の医療の現状〔医療保健制度を中心として〕
7	医療倫理①	医療者の倫理について
8	医療倫理②	医療者の倫理について
9	医療倫理③	医療倫理についてのディスカッション
10	まとめ	今学期の復習
11	試験	
12	予備日	

科目名 【英】	衛生学・公衆衛生学① 【Hygiene and Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学 年	1 年生	学 期	3 学期	曜 日	木曜	時 限	1 限

担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	--------	-------	--

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
到達目標	わが国の社会情勢について理解し、主に健康をめぐる諸問題、行政とシステムについて説明ができる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本曩 著（医学書院） 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
留意点 備 考	講義中、まとめとしてははり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	第 1 章 公衆衛生の目的、衛生行政	【到達目標】衛生・公衆衛生の目的について・衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。保健所と市町村保健センターの役割を説明できる。
2	第 2 章 疾病の予防と健康管理	【到達目標】プライマリーヘルスケアの全体像と健康管理について理解する。予防医学(1 次、2 次、3 次)の具体的内容が説明できる。
3	第 3 章 ライフスタイルと健康	【到達目標】生活習慣に起因する危険因子について理解する。食中毒について各型・種類について理解する。健康観について、近年見直されている健康生成論について知る。
4	第 4 章 環境と健康	【到達目標】気圏環境・大気汚染について理解する。水圏環境・上水および下水・水質汚濁について理解する。公害による健康被害について理解する。典型 7 公害について説明できる。4 大公害の発生場所と原因・疾病の内容が説明できる。
5	第 5 章 産業保健 第 6 章 精神保健	【到達目標】労働衛生にかかわる現状と課題について理解する。労働衛生 3 管理が説明できる。職業病と原因となる環境因子について説明できる。精神保健にかかわる現状と課題について理解する。主な精神疾患の特徴、精神保健の入院医療の定義について説明できる。
6	第 7 章 母子保健	【到達目標】妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。母子保健行政について理解する。我が国の母子保健の水準について説明できる。母子保健行政の具体例について説明できる。
7	第 8 章 成人・高齢者保健	【到達目標】高齢者保健の現状と問題点について理解する。介護保険の対象者について説明できる。
8	第 9 章 感染症とその対策	【到達目標】感染症の 3 要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。感染症新法に基づく分類 1 類～3 類まで説明できる。
9	第 10 章 消毒法 第 11 章 疫学	【到達目標】消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
10	第 12 章 保健統計	【到達目標】我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。人口動態の 5 事象、平均余命とはなにか説明できる。
11	試験	

12	試験の解答および解説						
科目名 【英】	東洋医学概論① 【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	1 年生	学 期	2.3 学期	曜 日	火曜	時 限	2 限

担当教員	一井 綾乃	実務者経験	1996 年 4 月～鍼灸院所属、 1996 年 7 月～2013 年 3 月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属
------	-------	-------	---

学習内容	東洋医学の基礎を学ぶ。
到達目標	東洋医学に携わるものとして理解しておくべき陰陽五行論、蔵象、病証などを学習し、実際の臨床に応用できる基礎知識を得る。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『東洋医学概論』（東洋療法学校協会）、プリント
留意点 備 考	毎回小テストを行う。

成績評価	各学期毎時間小テストを行う。その評価を 20～30%、期末試験を 70～80%で評価する。
------	---

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	陰陽学説	陰陽学説を学習し、理解できる。
2	五行学説	五行学説を学習し、理解できる。
3	五行色体表	五行色体表を学習し、理解できる。
4	生理事質 1	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
5	生理事質 2	気、血、津液、精について学習し、理解できる。
6	蔵象 1	五臓六腑、奇恒の腑、十二官について学習し、理解できる。
7	蔵象 2	肝、心の蔵象を理解できる。
8	蔵象 3	心、脾の蔵象を理解できる。
9	蔵象 4	脾、肺の蔵象を理解できる。
10	蔵象 5	肺、腎、三焦の蔵象を理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	2 学期の内容を理解し、復習する。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	病証 1	気、血、津液、精の病証について理解できる。
2	病証 2	八綱病証について理解できる。
3	病証 3	肝の病証について理解できる。
4	病証 4	心の病証について理解できる。
5	病証 5	脾の病証について理解できる。
6	病証 6	肺の病証について理解できる。
7	病証 7	腎の病証について理解できる。
8	病証 8	五臓の基本病証について理解できる。
9	病証 9	五臓の複合的な病証について理解できる。
10	まとめ	病証の伝変と波及について理解できる。
11	試験	試験
12	振り返り	3 学期の内容を理解し、復習する。

科目名 【英】	経絡経穴概論① [Outline of the Meridians and Acupuncture Point]			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単位	4
学年	1年生	学期	通年	曜日	水曜	時限	1学期：3限 2学期：2限 3学期：2限

担当教員	林 眞早	実務者経験	2013年2月～ 治療院開業
------	------	-------	----------------

学習内容	督脈から手少陽三焦経までの経脈の走行・所属経穴・取穴部位を学ぶ。人体取穴を行う。		
到達目標	経穴名の習得（覚える・書ける） 取穴部位の習得（正確に取穴ができる）		

準備学習 時間外学習	暗記期間、確実に覚えこむこと。また何度も繰り返して覚えなおすこと。		
使用教材	教科書『経絡経穴概論』（東洋療法学校協会） 配布プリント		
留意点 備考	講義と実技を行う。実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重し合って行うこと。		

成績評価	期末試験 60%＋小テスト 40%で評価する。		
------	-------------------------	--	--

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	総論 陰陽の概念	■ 経絡経穴概論を学ぶにあたっての総論 ■ 陰陽の概念についての説明
2	五臓六腑・五行説の概念 経絡・経穴の概念	■ 五行説・五臓六腑の概念について説明 ■ 経絡・経穴とは ■ 循行経路・病証を学ぶ
3	骨度法 小テスト	■ 骨度法とは？
4	督脈①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
5	督脈②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	任脈①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	手太陰肺経	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
8	手陽明大腸経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
9	手陽明大腸経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
10	取穴テスト①	範囲：督脈・任脈・手太陰肺経・手陽明大腸経
11	テスト	
12	テスト返却	■ 解答

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	足陽明胃経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
2	足陽明胃経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
3	足陽明胃経③	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
4	取穴テスト②	範囲：手陽明大腸経、足陽明胃経
5	足太陰脾経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	足太陰脾経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	手少陰心経	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
8	要穴の概念と意義	■ 五俞穴・五要穴の説明
9	取穴テスト③	範囲：足太陰脾経、手少陰心経
10	要穴・四総穴・八宗穴	■ 五俞穴・五要穴の説明
11	テスト	
12	テスト返却	■ 解答

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	要穴・四総穴・八宗穴	■ 五俞穴・五要穴の説明
2	手太陽小腸経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
3	手太陽小腸経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
4	小テスト	要穴
5	足太陽膀胱経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
6	足太陽膀胱経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
7	足太陽膀胱経③	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
8	足少陰腎経①	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
9	足少陰腎経②	■ 循行経絡・経穴名・取穴・主治症を学ぶ
10	取穴テスト④	範囲：手太陽小腸経、足太陽膀胱経、足少陰腎経
11	テスト	
12	テスト返却	■ 解答

履修上の注意

1. 講義と取穴実技を行う。実技では学生同士で身体に触れて経穴を取ります。取穴しやすい服装（白衣の下にタンクトップ、短パンなど）を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。

2. 出席は自分で管理すること。聞きにこないように。

科目名 【英】	はりきゅう理論① 【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単位	1
学年	1年生	学期	1学期	曜日	火曜	時限	1限

担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001年4月～2003年3月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	------	-------	--

学習内容	はり術、きゅう術の基礎を学ぶとともに様々な鍼灸の治療法を学ぶ
到達目標	☐ はりきゅう治療の適応・不適応および消毒の概念の習得 ☐ 基礎的なはりきゅう治療の知識の習得 ☐ 伝統的なはりきゅう治療法の知識の習得

準備学習 時間外学習	はりきゅう理論の教科書を事前に読んでおく
使用教材	【教科書】はりきゅう理論 【配布資料】あり
留意点 備考	なし

成績評価	各学期に3回小テストを実施。期末試験 70%+小テスト 20%+出席点 10%で評価する。
------	---

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識	■ 鍼灸の歴史と鍼灸に必要な古代思想 ■ 毫鍼の各部の名称
2	第2章 鍼の基礎知識	■ 鍼の太さと長さの基準 ■ 鍼先の形状と特徴・鍼の材質と特徴・鍼管の材質と特徴
3	第2章 鍼の基礎知識	■ 古代九鍼の種類と特徴
4	第3章 刺鍼の方式と術式	■ 刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕 ■ 刺鍼の術式〔揉撚法・押手・刺手・切皮・刺入法・刺鍼の角度〕
5	第3章 刺鍼の方式と術式	■ 刺鍼中の手技〔現行17手技〕
6	第4章 特殊鍼法	■ 小児鍼・皮内鍼・円皮鍼・灸頭鍼
7	第4章 特殊鍼法	■ 低周波鍼通電療法・耳鍼・レーザー鍼・頭鍼療法・イオン鍼・刺絡
8	第5章 灸の基礎知識	■ 艾について〔原料・成分・品質〕・線香
9	第6章 灸術の種類	■ 有痕灸〔透熱灸・焦灼灸・打膿灸〕の概要 ■ 無痕灸〔知熱灸・温灸・隔物灸・艾を使用しない灸法〕のそれぞれの概要と種類
10	第7章 鍼灸の臨床応用	■ はりきゅうの刺激量 ■ 固体(患者)の感受性 ■ 鍼灸療法の適応と禁忌
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技①～基礎はり実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	月曜	時 限	2 限

担当教員	田邊 健三	実務者経験	1977 年～2013 年 田邊鍼灸整骨院にて院長として従事
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	鍼灸師になるために必要な鍼施術の基礎を学び、刺鍼の基礎技術を修得することを目的とする。
到達目標	前期は刺鍼操作の基礎である片手挿管法の習得および正確な下腿・前腕の経穴の取穴と刺鍼法の習得。後期は身体各部の主要経穴の取穴法と経穴部位への指示された刺入深度に旋撚法および送り込み刺法で直刺・斜刺・横刺の刺入ができ、雀啄術と刺鍼転向法の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】はりきゅう実技
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	施術上の注意 鍼の基礎実技①	鍼治療における過誤・副作用 刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法、挿管法・切皮・刺入・抜鍼、片手挿管のデモンストレーション
2	鍼の基礎実技②	抜鍼困難時の対処法 刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法、挿管法・切皮・刺入・抜鍼、刺鍼方法のデモンストレーション
3	鍼の基礎実技③	刺鍼中の手技 刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法 挿管法・切皮・刺入・抜鍼、片手挿管の確認と鍼枕での旋撚法の練習①
4	鍼の基礎実技④	刺鍼の深度と角度 刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法、挿管法・切皮・刺入・抜鍼、刺入深度と角度の確認と鍼枕での旋撚法の練習②
5	鍼の基礎実技⑤	刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法、挿管法・切皮・刺入・抜鍼、刺入深度と角度の確認と鍼枕での旋撚法の練習③
6	鍼の基礎実技⑥	刺鍼の方法→押手と刺手・前揉法と後揉法、挿管法・切皮・刺入・抜鍼、刺入深度と角度の確認と鍼枕での旋撚法の練習④
7	鍼の基礎実技⑦	足三里穴の取穴法 自己の胃経【足三里穴】上での刺鍼方法、旋撚法の練習
8	鍼の基礎実技⑧	地機穴の取穴法 自己の脾経【地機穴】上での刺鍼方法、旋撚法の練習
9	鍼の基礎実技⑨	陽陵泉穴の取穴法 自己の胆経【陽陵泉穴】上での刺鍼方法、旋撚法の練習
10	試験	
11	試験	
12	予備日	復習

2 学期 授業計画【内容・目標】

1	下腿への刺鍼①	足三里穴、地機穴、陽陵泉穴の取穴法と刺鍼→直刺90° 刺入2cm
2	下腿への刺鍼②	足三里穴、地機穴、陽陵泉穴の取穴法と刺鍼→直刺90° 刺入2cm
3	前腕への刺鍼①	曲池穴、合谷穴の取穴法と刺鍼→直刺90° 刺入1～1.5cm
4	前腕への刺鍼②	曲池穴、合谷穴の取穴法と刺鍼→直刺90° 刺入1～1.5cm
5	各部の刺鍼①	【手指部・手関節部】送り込み刺法・旋撚法 中渚・陽池
6	各部の刺鍼②	【前腕部】送り込み刺法・旋撚法 内関・外関
7	各部の刺鍼③	【肘関節部】送り込み刺法・旋撚法 尺沢・曲沢
8	各部の刺鍼④	【足指部】と【足関節部周囲】送り込み刺法・旋撚法 太衝・足臨泣・崑崙
9	直刺・斜刺・横刺	刺入角度による押手の決め方の相違点および送り込み刺法 雀啄術と刺鍼転向法
10	試験	
11	試験	
12	予備日	復習

3 学期 授業計画【内容・目標】

1	各部の刺鍼⑤	【膝関節部周囲】送り込み刺法・旋撚法 血海・梁丘
2	各部の刺鍼⑥	【下腿部前側・外側】送り込み刺法・旋撚法 豊隆・懸鐘
3	各部の刺鍼⑦	【下腿部後側・内側】送り込み刺法・旋撚法 三陰交・陰陵泉・承山
4	各部の刺鍼⑧	【腰部】送り込み刺法・旋撚法 腎俞・志室・大腸俞
5	各部の刺鍼⑨	【仙骨部】送り込み刺法・旋撚法 次髎
6	各部の刺鍼⑩	【背部】送り込み刺法・旋撚法 身柱・肺俞
7	各部の刺鍼⑪	【頭部と後頭部】送り込み刺法・旋撚法 百会・天柱・風池
8	各部の刺鍼⑫	【腹部】送り込み刺法・旋撚法 天枢・関元
9	各部の刺鍼⑬	【肩部】送り込み刺法・旋撚法 肩井・天宗
10	試験	
11	試験	
12	予備日	復習

1 学年での刺鍼実技に使用する経穴について

前期	下腿	足三里・地機・陽陵泉	
	前腕	合谷・曲池	
後期	上肢	中渚・陽池・内関・外関・尺沢・曲沢	
	下肢	血海・梁丘・三陰交・陰陵泉・承山・太衝・足臨泣・崑崙・豊隆・懸鐘	
	体幹	頭 部 後頸部	百会・天柱・風池
		顔面部	下関・攢竹・聴会・四白
		腹 部	天枢・関元
		背 部	身柱・肺俞
		腰 部 仙骨部	腎俞・志室・大腸俞・次髎
		肩 部	肩井・天宗

科目名 【英】	はりきゅう実技②～基礎きゅう実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	1 年生	学 期	通 年	曜 日	金曜	時 限	1 学期：2 限 2.3 学期：1 限

担当教員	駒井 知佳子	実務者経験	2009 年 4 月～2014 年 6 月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014 年 4 月桃の花針灸院開院
------	--------	-------	---

学習内容	身体に安全かつ有効な施灸ができるように、技術を学ぶ。
到達目標	1 学期：紙上施灸・板状施灸がおこなえる。 2 学期：安全に身体施灸をおこなえる。 3 学期：身体施灸の応用をおこなえる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	実技道具、【教科書】はりきゅう実技、図解施灸基礎実践マニュアル、
留意点 備 考	服装など規定の準備をしておくこと。

成績評価	本試験 50% 平常点 50%
------	-----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	
2	施灸	板状施灸①
3	施灸	板状施灸②
4	施灸	板状施灸③
5	施灸	板状施灸④、※レポート提出
6	施灸	紙上施灸①
7	施灸	紙上施灸②
8	施灸	紙上施灸③
9	施灸	身体施灸①
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	身体施灸1	上肢、半米粒大作成
2	身体施灸2	身体施灸・タオルの扱い方
3	身体施灸3	下肢への施灸
4	身体施灸4	透熱灸【失眠穴への施灸】
5	身体施灸5	腹部触診・募穴への施灸
6	身体施灸6	腹部触診・募穴への施灸
7	身体施灸7	試験準備
8	身体施灸8	背部触診・俞穴への施灸
9	身体施灸9	試験準備
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
2	身体施灸1	胃の六つ灸
3	身体施灸2	胃の六つ灸
4	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
5	特殊灸法1	澤田流太極療法
6	特殊灸法2	澤田流太極療法
7	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策
8	臨床に出るにあたって	臨床実習前施術実技試験対策 ※レポート提出
9	臨床に出るにあたって	試験準備
10	試験	試験
11	試験	試験
12	予備日	まとめ

科目名 【英】	はりきゅう実技③～基礎はりきゅう実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単位	2
学年	1年生	学期	通年	曜日	月曜	時限	3限

担当教員	北村 智	実務者経験	1970年6月～1987年3月 鍼灸院所属(鍼灸施術に従事) 1976年4月～2003年3月 専門学校、短大、大学に勤務 (基礎教科、鍼灸実技、臨床実習の授業担当) 2006年4月～ 東洋医療専門に非常勤勤務(はりきゅう基礎実習担当)
------	------	-------	--

学習内容	はり施術を適切に行うために不可欠な技術を修得するための基本操作・技術を習得する。
到達目標	鍼施術に不可欠なハリを刺す基礎技術がスムーズ、且つ正確に操作でき、施術 point(経穴)に安全に、且つ効果的な刺鍼(ハリを刺すこと)ができる。

準備学習 時間外学習	経穴学(取穴法)・解剖学(体表解剖学)・刺鍼基礎マニュアルの予習が必要。 刺鍼や施灸の基礎技術(片手挿管や紙上施灸)の時間外練習が必要。
使用教材	『刺鍼基礎実習ガイドライン』『刺鍼基礎マニュアル』『施灸基礎マニュアル』
留意点 備考	講義内容を書き取る「メモ帳」白衣のポケットに常備して受講することが望ましい。

成績評価	実技試験 60% 基礎技術点 30% 出席点 10%
------	--------------------------------------

1学期 授業計画【内容・目標】		
1	プロローグ	教材の整理状況確認。実習用具の作製。用具の名称。刺手と押手。授業の準備(段取りを含め)や後片付け。 資料や用具の整理整頓、準備・段取り・後片付けの必要性和、用具の名称が理解できる。
2	片手挿管操作導入編Ⅰ	資料や用具の整理整頓と用具作製の完成度を確認。片手挿管操作の段階的練習方法の demonstration。練習。 一定のリズムで連続的な操作を習得し、1分間に10回以上の基本操作ができることを目標とする。
3	片手挿管操作導入Ⅱ 柔撚法と押手	片手挿管操作導入編Ⅰの5分間タイムトライアル。刺鍼枕上での片手挿管操作の一連の流れ。 前柔法、押手固定、鍼管の立て方、弾入・切皮、抜管・抜鍼、後揉法の重要性について習得する。
4	片手挿管操作Ⅰ	刺鍼枕上での片手挿管操作の練習。 一定のリズムでの連続的な操作を習得する。取穴、前柔撚法、押手(三原則)、後柔撚法について理解する。
5	片手挿管操作Ⅱ 旋撚刺法	片手挿管操作の練習と5分間タイムトライアル。旋撚刺法の練習。 刺鍼枕上での刺鍼操作と旋撚刺法を習得する。
6	片手挿管操作Ⅲ 施術の準備と後片付け	基礎技術操作の練習とタイムトライアル。手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付け。 施術用具を清潔に、そして段取りのよい準備と衛生的な用具の片付けを習得する。
7	施術の準備Ⅰ 旋撚刺法Ⅰ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
8	施術の準備Ⅱ 旋撚刺法Ⅱ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
9	施術の準備Ⅲ 旋撚刺法Ⅲ	用具の準備。基礎技術操作の練習とタイムトライアル。枕上での刺鍼練習。 用具の準備、片付けが正しくできる。枕上での旋撚刺鍼の習得。
10	術前の準備と 後片付けの試験	手指消毒法、ワゴンの清掃、用具の準備、後片付けの仕方の評価。
11	片手挿管操作と 旋撚操作の試験	枕上での片手挿管操作の完成度と旋撚操作の修得度の評価。
12	エピローグ	1学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 2学期の授業内容と目標。技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	取穴と刺鍼の感覚①	鍼の材質や番手の相違による刺鍼感覚 材質や番手の相違による刺鍼の感覚が異なることを習得する。 刺鍼部位の変化を触知して正確に切皮・刺入する。正しく取穴して、的確に刺鍼する技術を習得する。
2	取穴と刺鍼の感覚②	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習 刺鍼部位(経穴)の変化を察知して、正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
3	取穴と刺鍼の感覚③	刺鍼練習用具を用いて、正確に取穴、刺鍼する練習。 骨間や腱間、骨際へ正確に取穴、刺鍼する技術を習得する。
4	下腿部のc取穴と刺鍼	送込み刺法 鍼に旋撚を加えずに刺入する方法を習得する。 陽陵泉、足三里、陰陵泉、地機を取穴法 経絡の流注、取穴部位と取穴法を習得する。
5	施術部の消毒法と切皮	術前・術後の消毒法 術前・術後を通じて、施術部を衛生的に消毒することを習得する。 下腿部の脾経上での弾入・切皮 脛骨骨際を取穴して、無痛切皮を習得する。
6	経穴部位への刺鍼	旋撚刺入の練習 陰陵泉と地機に旋撚直刺15mm刺入を習得する。 送込み刺入の練習 陽陵泉と足三里に送込み直刺15mm刺入を習得する。
7	刺鍼転向法Ⅰ	刺鍼転向法の解説と demonstration 左右の地機穴に旋撚刺入直刺15mmの直刺置鍼後、上方向に刺鍼転向(45度斜刺)を習得する。
8	刺鍼転向法Ⅱ	旋撚と送込みで刺入した後、直刺でない場合、刺鍼転向で直刺に、あるいは直刺では斜刺に刺鍼転向する。 目的の方向に刺鍼できない場合、目的の方法に刺鍼転向ができる。
9	基礎実習の復習	手指の洗浄と消毒、用具の準備と後片付けの復習。正しい施術の準備ができる。 下腿部経穴の取穴法と刺鍼法の復習 取穴と刺鍼が正しくできる。
10	片手挿管操作の試験	片手挿管操作の完成度の評価。
11	消毒法と旋撚刺法の試験	施術前後の消毒法と地機穴での旋撚刺入操作との評価。
12	エピローグ	2学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。 3学期の授業内容と目標。技術修得の方法と目標の小論文(宿題)。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	背腰部の取穴	背部俞穴の取穴基準線と背腰部の施術の注意点について。 取穴基準線を理解し、基準線に一致する経穴が取穴できる。
2	背腰部での刺鍼	ヤコビー線を基準にしての取穴法と刺鍼の方法。腰陽関と命門穴を取穴でき、腎俞と大腸俞に刺鍼できる。
3	募穴について	募穴と刺鍼方法について。募穴と臓腑(経絡)、部位と体幹の陰陽の関係が理解できる。
4	前腕部の施術	前腕部の流注と取穴法、刺鍼方法。前腕部経穴の取穴と刺鍼ができる。
5	肩甲上部と肩関節周辺の施術	肩甲上部と肩関節周辺の取穴法と刺鍼法。肩甲上部と肩関節周辺の取穴が取穴でき、刺鍼ができる。
6	下腿部での刺鍼Ⅰ	下腿部経穴の臨床的取穴法について。 学問的取穴法と臨床的取穴法を理解し、経穴反応を捉えての刺鍼ができる。
7	下腿部での刺鍼Ⅱ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
8	下腿部での刺鍼Ⅲ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
9	下腿部での刺鍼Ⅳ	下腿部経穴での刺鍼を復習。下腿部での取穴、刺鍼が正しくできる。
10	旋撚刺入の試験	地機穴の取穴法と旋撚刺法技術の評価。
11	送込み刺入の試験	足三里穴の取穴法と送込み刺法技術の評価。
12	エピローグ	3学期の復習。試験の結果を踏まえて、個々の改善点を指導する。

科目名 【英】	はりきゅう実技④～臨床基礎実技～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	48	単位	1
学 年	1 年生	学 期	2. 3 学期	曜 日	2 学期：金曜 3 学期：水曜	時 限	2. 3 学期：3 限

2 学期 担当教員	翁 祖耀	実務者経験	1974 年～ おきな鍼灸治療院 開業
3 学期 担当教員	向井 陽子	実務者経験	2006 年～ 向井鍼灸院開院 国内外でスポーツメディカルトレーナーとして動いている

2 学期 学習内容	きゅう師になるための必要な基礎知識ならびに施灸技術を習得する。
3 学期 学習内容	鍼灸師としてスポーツ現場で活躍できるよう知識と技術を学ぶ 鍼灸施術だけでなく、他の方法からもアプローチが出来るように学ぶ。
2 学期 到達目標	①目的に合った艾を作成することができる。 ②紙上施灸は 10 分間 90－120 壮行うことができる。 ③灸による医療過誤の予防法と対処法を学ぶ。 ④身体各部位へ安全な施灸を行うことができる。 ⑤棒灸、灸頭針など特殊灸法の基礎を学ぶ。
3 学期 到達目標	①疾患に対しての判断が出来る ②施術したい組織を的確に触れる ③目的に対して鍼灸の刺激量を変える ④どのような体勢でも鍼灸施術が行える ⑤鍼灸以外で行えることの幅を広げる ⑥トレーナーとしての役割を学ぶ

準備学習 時間外学習	解剖学、経絡経穴概論の予習が必要。
使用教材	配布プリント
留意点 備考	副教材として解剖学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	授業内に一度、評価テストを行う。期末試験 60%＋評価テスト 10 点＋平常点 30%
------	---

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	授業内容、評価方法の説明等
2	特殊灸法	市販灸（せんねん灸）
3	特殊灸法	棒灸・押し灸
4	特殊灸法	隔物灸（生姜灸、塩灸、味噌灸）
5	特殊灸法	箱灸
6	身体施灸	背部俞穴への身体施灸
7	特殊灸法	灸頭鍼
8	特殊灸法	灸頭鍼
9	試験練習	試験の流れについて、注意点と評価方法および試験練習
10	試験	
11	試験	
12	追再試験	追再試験

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	導入	・ 授業の内容・評価方法の説明を行い、授業に対する目的を決めてもらう。 ・ 鍼灸のおもしろさを体感してもらい、運動療法にふれる。
2	スポーツ鍼灸 1	【姿勢評価①】 ・ 簡易姿勢評価、ROM、MMT を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 下腿部浮腫と筋緊張をとり、姿勢を整えるようになる。
3	スポーツ鍼灸 2	【姿勢評価②】 ・ 簡易姿勢評価、バランス評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 筋膜に対して鍼のアプローチが出来るようになり、循環障害改善が出来るようになる。
4	スポーツ鍼灸 3	【足関節捻挫】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、足関節捻挫を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行う運動、ストレッチもアドバイス出来るようになる。
5	スポーツ鍼灸 4	【シンスプリント】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、シンスプリントを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
6	スポーツ鍼灸 5	【肉離れ】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、肉離れを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
7	スポーツ鍼灸 6	【野球肘・テニス肘】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、野球肘・テニス肘を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
8	スポーツ鍼灸 7	【腰部痛】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、腰部痛を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
9	スポーツ鍼灸 8	【復習】 ・ 簡易姿勢評価の小テストを行う。 ・ 今までの疾患に対しての再確認を行い、鍼灸施術で対応出来るようになる。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	スポーツ鍼灸 9	【フィードバック・頭皮針】 ・ 期末試験に対してのフィードバックを行う。 ・ 座位で行う鍼灸施術方法を学び、どのような場面でも対応できるようになる。